

平成 27 年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネ・いもち病（No.5）

平成 27 年 7 月 13 日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

一部の地域で葉いもちが散見されており、中にはずり込み症状を呈するほ場も確認されている。

今後、曇雨天が続くことが予想されていることから、ほ場の見回りを行って、いもち病の早期発見に努め、状況に応じた適切な対応を取ることが必要である。

2 発生状況等

- (1) 7月10日現在、一部の地域で葉いもちが散見されており、中にはずり込み症状を呈するほ場も確認されている。
- (2) ブラストムによる葉いもちの感染好適条件又は準感染好適条件は、7月5日、7月7～9日にかけて出現した（表1）。したがって、7月12～16日にかけて、新たな病斑が発生する可能性が高い。
- (3) 7月9日発表の気象1か月予報によると、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多く、期間の後半は、平年に比べ晴れの日が少ないと予想されており、本病の発生に助長的である。

表1 ブラストムによる感染好適日の出現状況

日付	鳥取	青谷	岩井	智頭	倉吉	塩津	米子	境	茶屋
7/1	—	—	—	●	—	—	—	—	—
7/2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/3	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/5	●	—	—	●	—	—	—	—	○
7/6	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/7	●	●	●	—	●	●	—	●	○
7/8	—	●	●	—	—	●	●	●	○
7/9	—	—	—	●	—	●	—	●	○
7/10	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/11	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/12	—	—	—	—	—	—	—	—	—

注) ●感染好適日、○準感染好適日

3 防除上注意すべき事項

- (1) 置き苗は、本田へのいもち病の伝染源となるので、早急に処分する。
- (2) 育苗箱施用を行っていても十分な効果が得られない場合があるため、ほ場の見回りを徹底し、早期発見に努める。
- (3) 本田において上位葉に急性型病斑がみられる場合には、治療効果を有する粉剤、水和剤などを散布し、その後は病勢に応じて追加防除を行う。
- (4) 降雨が続く場合でも雨の止み間に防除を行い、適期を失しないようにする（粉剤散布後3時間程度降雨がなければ防除効果は十分にある）。
- (5) 本県では、ストロビルリン系薬剤耐性菌が発生しているので、本系統薬剤の使用を控える。
- (6) 防除に当たっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。